

博士論文の製本及び体裁について
(平成27年2月4日代議員会決定)

○製本について

最低限、簡易製本とし、無線綴じ、または、ホッチキス止めや背張り、表紙くるみ等により行い、製本後には差替えができないようお願いいたします。

(論文提出後は、原則として差替えは出来ませんが、差替えがある場合は、製本そのものを差替えることとなります。)

○体裁について

題名、目次、背表紙や謝辞等がないものも多く見受けられるようになりました。

つきましては、次の作成例を参考にし、主論文の製本をお願いいたします。

(体裁等について不明な場合は、製本前に教務課教務係にご相談願います。)

作成例

Example

- ・フラットファイルやバインダーで綴じたものは認められません。

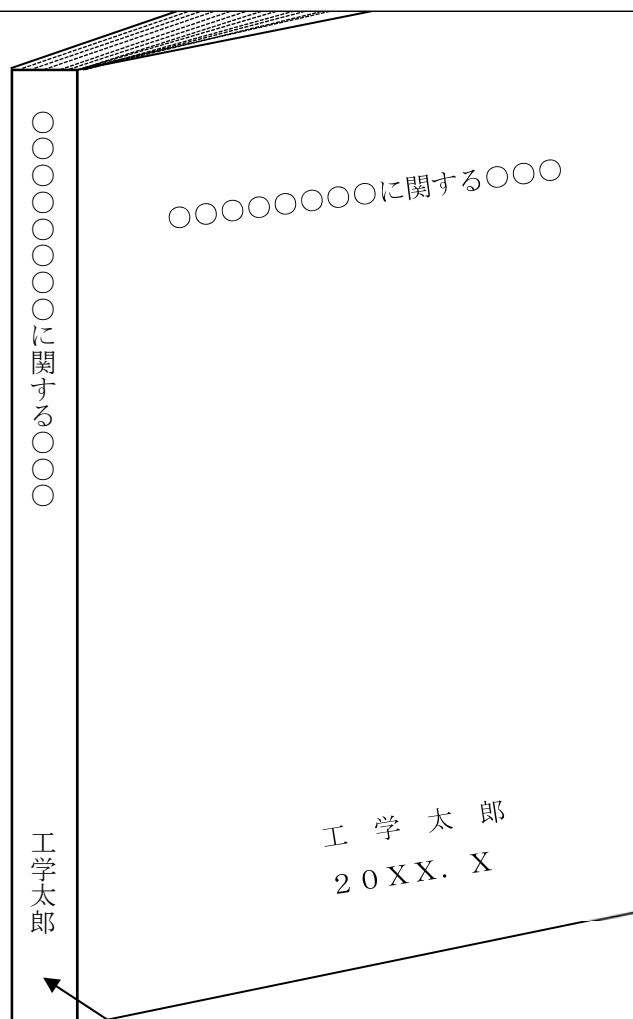
Filing in a binder or file is not acceptable.

- ・無線綴じ（糊等を利用）、または、ホッチキス留め

Unsewn or stapled bookbinding is acceptable.

- ・表紙、裏表紙、背表紙（製本テープ利用可）

Book-binding tape on Front cover, back cover and spine of book is acceptable.



- ・論文題名、氏名等を記載した中表紙を付すこと。

The title of thesis and your name should be written on inside cover.

- ・目次を付すこと。

Put table of contents.

- ・巻末に謝辞を付すこと。
(論文作成時の礼儀です。)

Address your gratitude at the back of the book.

(It is an etiquette for making a book.)

- ・表紙に年月を記載する場合は、予備調査会を行った年月を記入すること。

When you fill out the date on the front cover, please write the date of pre-screening by professors.

背表紙を付すこと

Put the spine of book.

体裁等について不明な場合は、製本前に教務課教務係にご相談願います。

If you have any questions, please consult with the Student Affairs Division.